

小山町 富士山火山防災マップ

作成の目的

小山町域は、宝永4年(1707年)の富士山大噴火の際に、噴石、火山灰による大きな被害(1~3mの降灰)を受けました。その後長く続く復興への苦難は、今に語り継がれています。このマップはそうした過去を身近に感じている町民の皆さんに、富士山の火山活動をよく理解していただくために作成しました。

富士山は、いまから約300年前に噴出した後、現在まで静かな状態が続いています。しかし、地下深くでは今も

マグマが活動を続けている活火山です。そのため万が一噴火しそうになったり噴火が始まった時に備えて、皆さんが自らの安全を確保するためにどのような知識を学び、どのような行動をすればよいかを知っていただくために、このマップを役立ててください。

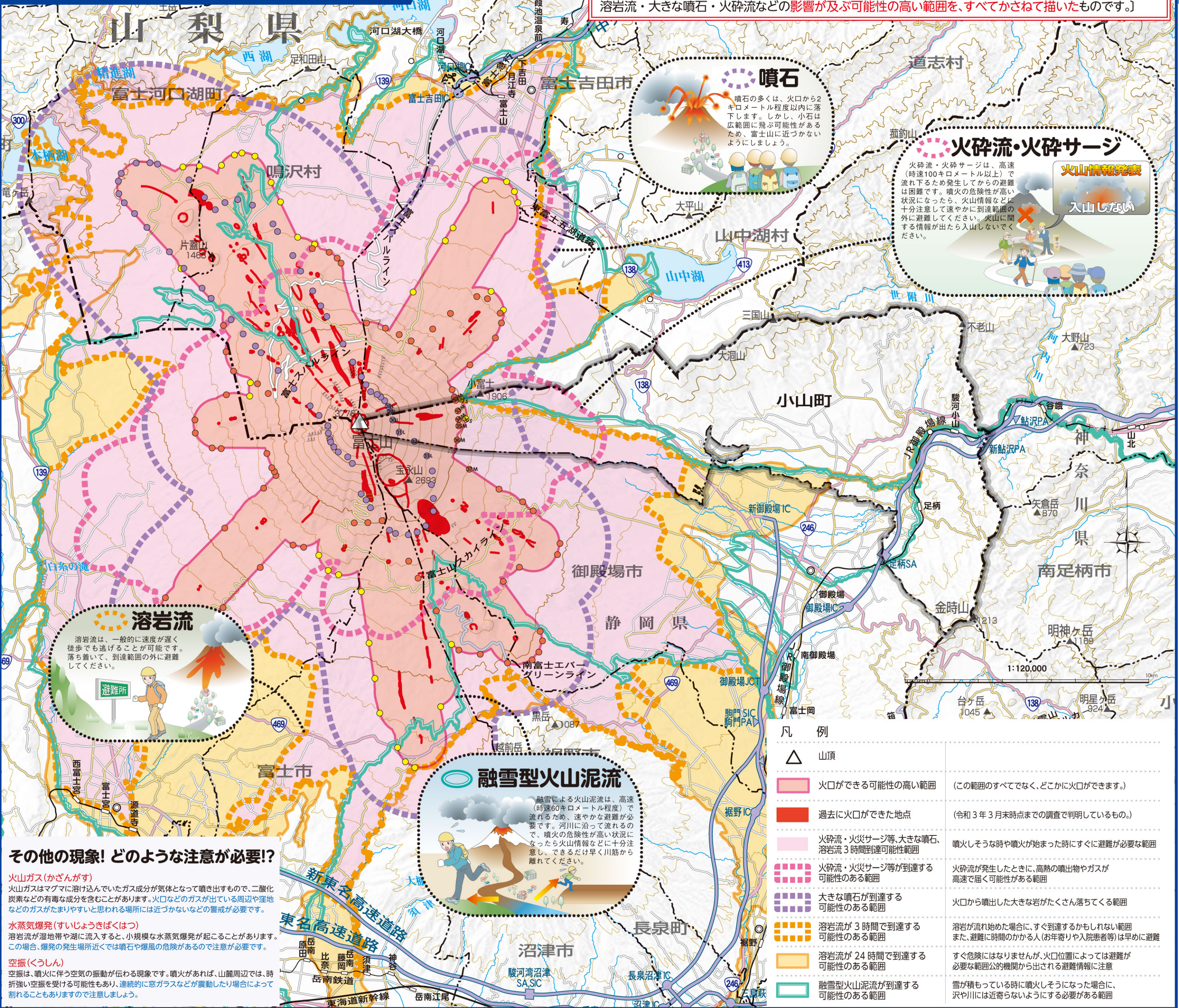
なお、富士山がすぐに噴火が起こるような兆候は、現時点(令和4年)においてありません。

このマップは一定の条件に基づいて推定された影響範囲や被害の程度を表したものであり、実際に噴火した場合は

このマップに示された内容と異なる部分が出てくる場合もあります。

富士山では過去さまざまな規模や種類の噴火が起きており、噴火の場所も山頂だけに限らず山腹にも数多くの火口が分布しています。このような富士山の噴火の特徴をこのマップから学び、どのような現象がどこまでやってくるのかを十分理解した上で、的確な防災行動がとれるように心掛けてください。

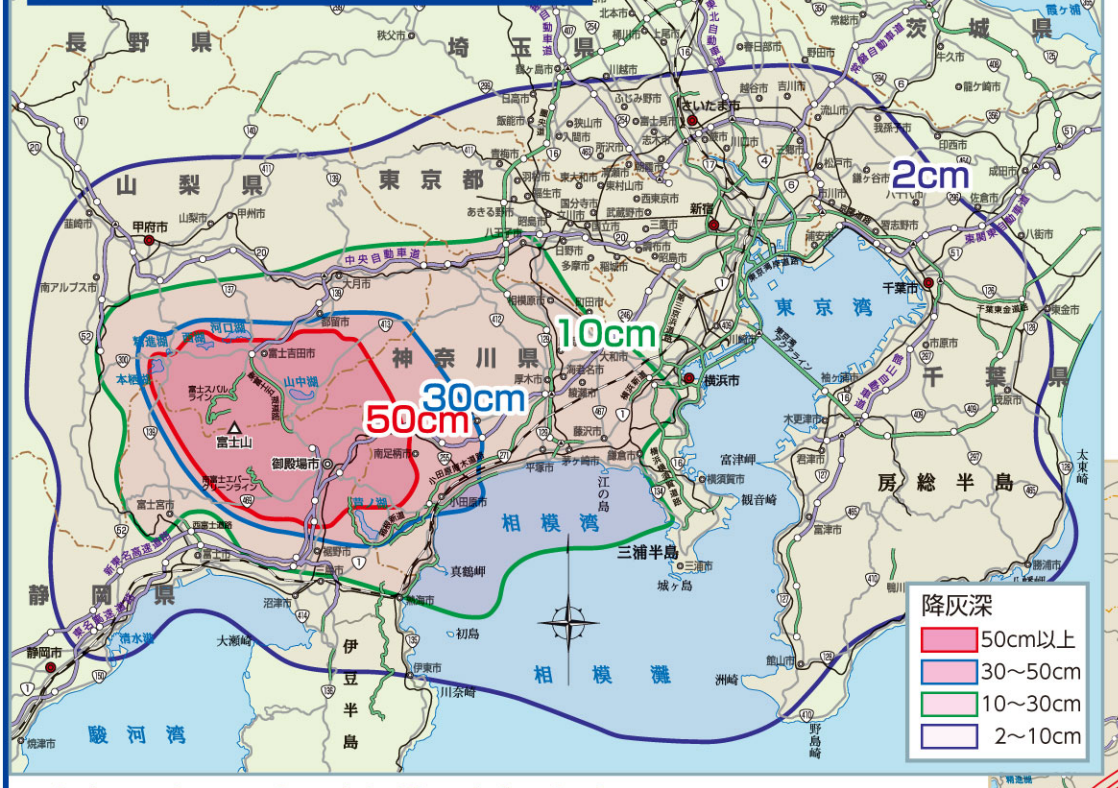
富士山火山ハザード統合マップ



降灰

細かく砕けたマグマが空高く吹き上げられ、風に乗って遠くまで運ばれます。火口の近くでは厚く積もり、遠くにゆくにしたがって徐々に薄くなります。外出を控える車の運転には注意しましょう。

火山灰の予測到達範囲と降灰深



降灰があったら...

- 灰を吸わないようにするためマスクやゴーグルを着用しましょう。
- 富士山の近くでは火山灰だけでなく小石が降ってくるので、やむを得ず外に出る時はヘルメットをかぶり頭部を保護しましょう。
- 家は窓を開けて建物を密閉します。木造家屋では屋根に30cm以上の火山灰が積もると、屋根が抜けたり建物が壊れたりすることがあります。特に雨が降ると火山灰が重くなるので注意しましょう。
- 車で走ると、灰を巻き上げて視界が悪くなったりスリップしやすくなります。また、雨が降っているとワイパーが使えず危険です。高速道路は、通行不能となる可能性があります。JRなど鉄道は、少量の降灰でも運行が困難になる可能性があります。

宝永噴火(1707年)時の実績の降灰分布



気象庁が発表する火山情報

- この情報は、噴火災害軽減のため気象庁から発表され、NHKなどの報道機関や各市町から発信されます。(御殿場市では同報無線(屋外子局・戸別受信機)、広報車などによりお知らせします。)
 - この情報は、危険な範囲や防災対応に応じて5つのレベルに区分し、取るべき行動をお知らせします。
 - 富士山が噴火しそうなる時には、情報に注意し、万が一に備えて避難の準備をする等、適切に行動しましょう。
 - その他、火山活動の月間情報などは「火山の状況に関する解説情報」で発表します。
- ※ これまで発表されていた「緊急火山情報」「臨時火山情報」「火山観測情報」は廃止されました。

予報警報	対象範囲	噴火警戒レベル	火山活動の状況	住民等の行動	登山者・入山者等の対応
噴火警報	居住地域	レベル5 (避難)	居住地域に重大な被害を及ぼす噴火が発生、あるいは切迫している状態にある。	危険な居住地域からの避難等が必要(状況に応じて対象地域や方法等を判断)。	—
噴火警報	居住地域	レベル4 (高齢者等避難)	居住地域に重大な被害を及ぼす噴火が発生すると予想される(可能性が高まっている)。	警戒が必要な居住地域での避難の準備、災害時要援護者の避難等が必要(状況に応じて対象地域を判断)。	—
火口周辺警報	火口から居住地域の近くまで	レベル3 (入山規制)	居住地域の近くまで重大な影響を及ぼす(この範囲に入った場合は生命に危険が及ぶ)噴火が発生、あるいは発生すると予想される。	通常の生活(今後の火山活動の影響を及ぼす(この範囲に入った場合は生命に危険が及ぶ)噴火が発生、あるいは発生すると予想される)。	登山禁止や入山規制等、危険な地域への立入規制等(状況に応じて規制範囲を判断)。
火口周辺警報	火口周辺	レベル2 (火口周辺規制)	火口周辺に影響を及ぼす(この範囲に入った場合は生命に危険が及ぶ)噴火が発生、あるいは発生すると予想される。	通常の生活。	火口周辺への立入規制等。(状況に応じて火口周辺の規制範囲を判断)。
噴火予報	火口内等	レベル1 (活火山であることに留意)	火山活動は静穏。火山活動の状態によって、火口内での噴火等が見られる(この範囲に入った場合は生命に危険が及ぶ)。	通常の生活。	特になし(状況に応じて火口内への立入規制等)。

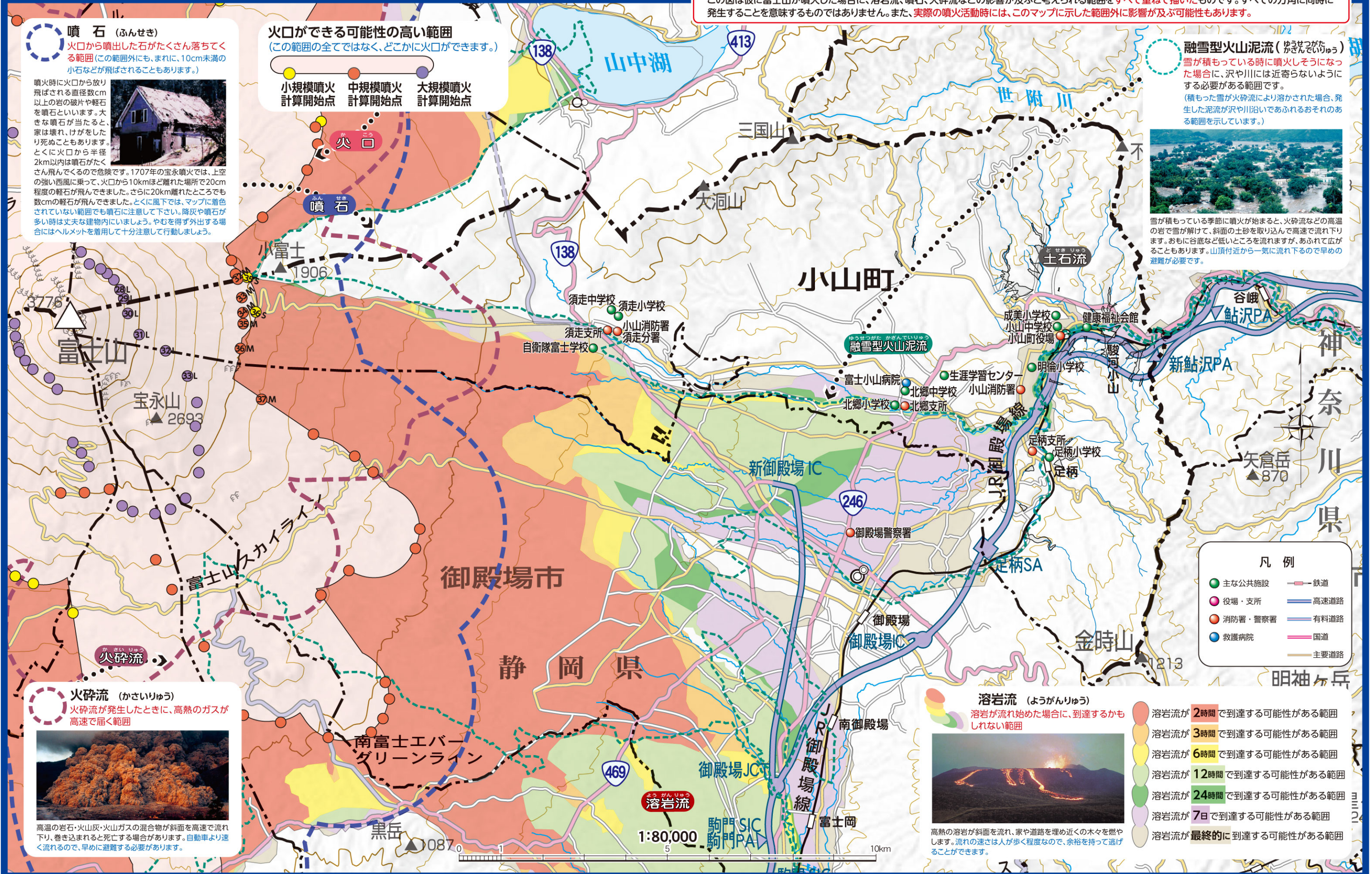
噴火の状況により取るべき行動が変わりますので、情報の変化に注意しましょう。噴火警報が発表されていない場合でも、突然噴火することがあります。

小山町富士山火山防災マップ

溶岩流・噴石・火砕流・融雪型火山泥流 可能性マップ

個々の火山現象が及ぶ最大範囲や最小到達時間を概観的に可能性領域として示したマップ

この図は仮に富士山が噴出した場合に、溶岩流、噴石、火砕流などの影響が及ぶと考えられる範囲をすべて重ねて描いたものです。すべての方角に同時に発生することを意味するものではありません。また、実際の噴火活動時には、このマップに示した範囲外に影響が及ぶ可能性もあります。



写真提供：溶岩流・白尾元理、火砕流・(株)ナガサキ・フォト・サービス、融雪型火山泥流・AFP時事通信社、噴石・(財)砂防・地すべり技術センター

測量法に基づく国土地理院長承認 (使用) R 3 JHs 467

溶岩流のシミュレーション (溶岩流ドリルマップ重ね合わせ図)

(注) 各計算開始点の溶岩流ドリルマップを重ね合わせた図で、一度の噴火でここに塗られた範囲の全てに溶岩流の危険が生じるわけではありません。

① 溶岩流ドリルマップの説明

富士山の火口は山頂を中心に広い範囲に分布し、宝永噴火のように山頂以外から噴火する可能性があります。そのため、過去に噴出した火口を基に火口が生じる可能性の高い範囲を大規模噴火・中規模噴火・小規模噴火ごとに設定しました。

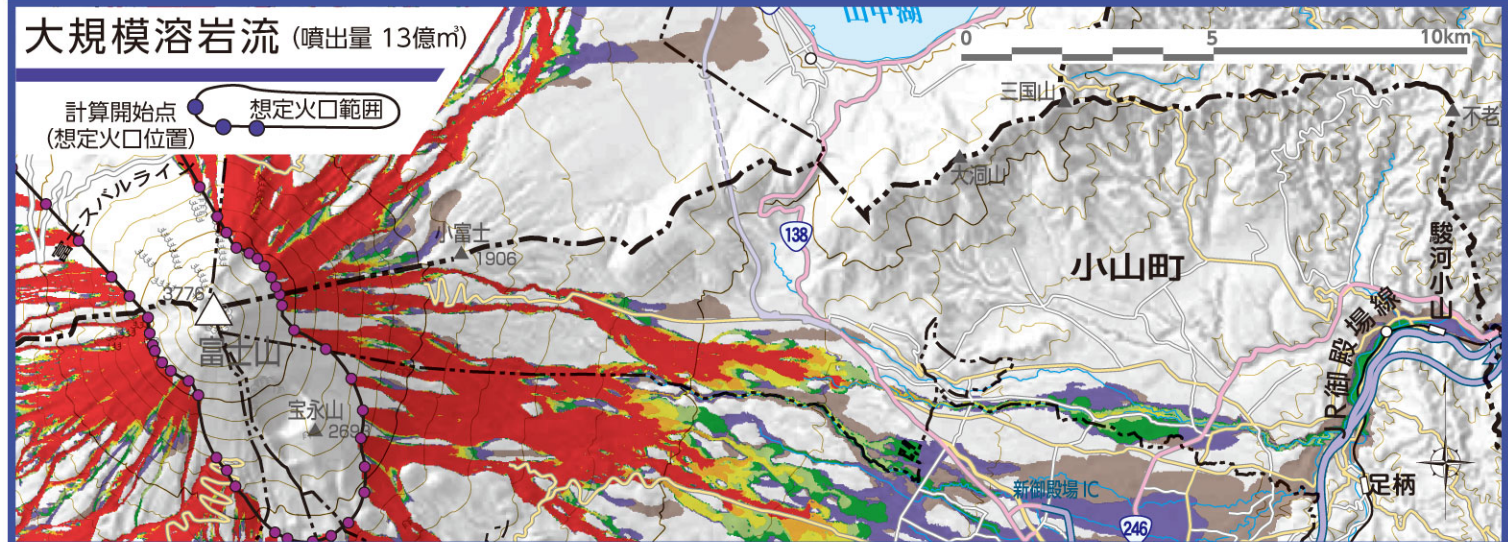
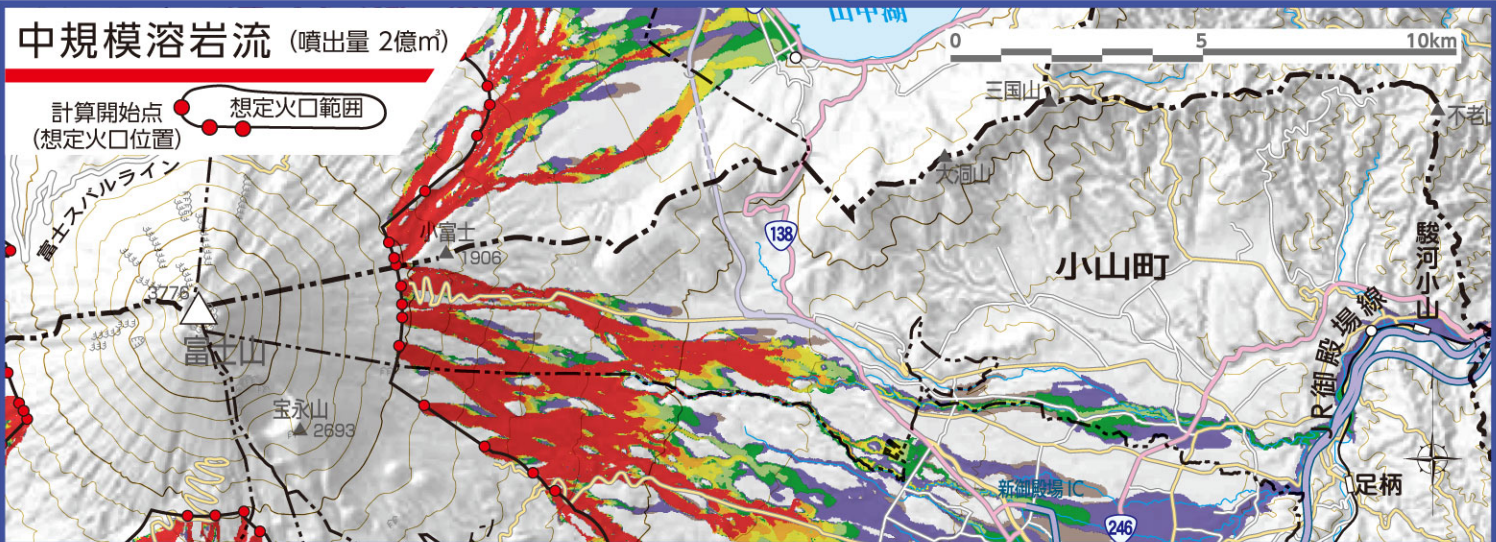
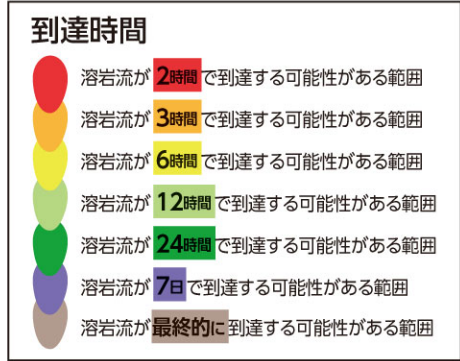
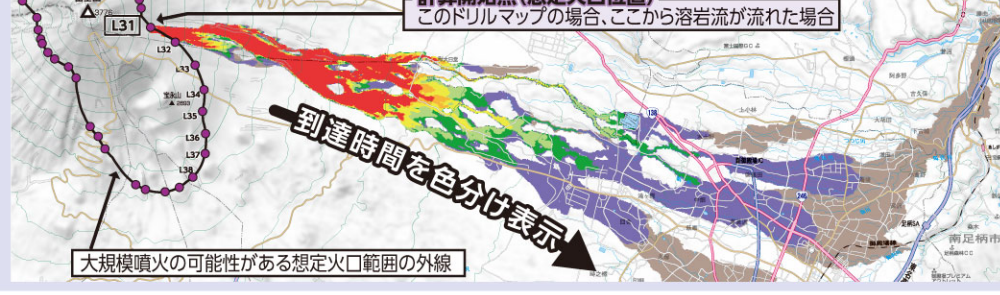
② 溶岩が流れ出る可能性のある火口の設定

それぞれの規模の火口範囲の外縁 (最も平地に近い側) に地形を考慮し計算開始点 (火口) を設定しました。

③ 溶岩流のシミュレーション

溶岩流のシミュレーションを時間ごとに表現したものが溶岩流のドリルマップです。大中小の規模ごとに小山町に流れ出る可能性のある火口全てのドリルマップを重ね合わせたものを掲載しました。

ドリルマップの見方 (事例：L31 計算開始点 大規模溶岩流のドリルマップ)



* 計算開始点から各規模噴火の溶岩流が発生した場合の計算結果であり、これら以外の場所で噴火が発生した場合は、異なる結果となります。

噴火しそうな時、噴火が始まった時には?

気象庁が発する火山情報に注意しましょう。

デマやうわさに惑わされないようにしましょう。

テレビやラジオのニュース、新聞、町の広報などを聞いて正しい情報を得ましょう。

高齢者等避難などの指示があった場合には従いましょう。

家族に安否を知らせるために...

災害用伝言ダイヤル (171) 大規模な災害が発生した時に被災地域内やその他の地域の方々と間で「声の伝言板」の役割を果たすシステムです。「171」をダイヤル後、ガイダンスに従ってご利用下さい。

伝言の録音方法 171→1 音声ガイダンスに従ってください。

伝言を入れる (30秒以内) 被災地の方は自宅の電話番号、被災地以外の方は被災地の方の電話番号を市外局番からダイヤルしてください。

非常用持ち出し品・非常用備蓄品

避難するときに持ち出す「非常用持ち出し品」(必要最小限のもの)と、災害から復旧するまでの数日間を支える「非常用備蓄品」に分けて用意しましょう。

<p>飲料水・生活用水</p> <ul style="list-style-type: none"> 3日分の飲料水の備蓄 (1人×3リットル×3日) 生活用水 水筒 	<p>食料品等</p> <ul style="list-style-type: none"> 3日分の食料の備蓄 レトルト食品 缶詰 おやつ 紙コップ ラップ 簡易食器 箸 缶切り/ナイフ 粉ミルク 	<p>医薬品等</p> <ul style="list-style-type: none"> 救急用品 (消毒液、傷薬、ガーゼ、包帯、ばんそうこう) 常備薬 カセット鍋 はさみ ピンセット 使い捨てカイロ 体温計
<p>停電への備え</p> <ul style="list-style-type: none"> 予備の電池 懐中電灯 (大型/小型) 	<p>情報</p> <ul style="list-style-type: none"> 携帯電話・充電器 ポータブルラジオ モバイルバッテリー 	<p>燃料の備え</p> <ul style="list-style-type: none"> 卓上カセットコンロ ボンベ 固形燃料
<p>衣類等・衛生用品</p> <ul style="list-style-type: none"> 衣類 タオル ティッシュ マスク ウェットティッシュ 除菌シート 軍手 生理用品 紙おむつ 簡易トイレ トイレシート ガムテープ 歯磨き用品 ゴミ袋 	<p>その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ライター 寝袋 ローソク 筆記具・マーカーペン ガムテープ 新聞紙 ロープ 缶 	<p>◆非常用持ち出し品のポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> 家族全員が目につきやすい場所に置き、すぐに持ち出しやすいようにしましょう。 家族構成等を考えて、必要なだけ用意しましょう。欲張りすぎると、避難が大変になります。 ラジオは、正しい情報を得るために必要です。予備の電池は多めに用意しておきましょう。

災害用伝言板 (web171)

インターネットを利用した安否確認の伝言板です。パソコンやスマートフォン、携帯電話等で利用できます。

利用方法 web171へアクセス <https://www.web171.jp>

被災地の人の電話番号を市外局番から入力

伝言を登録・確認

防災機関の連絡先

防災機関名	電話番号
小山町役場 (代表)	0550-76-1111
小山町役場危機管理局	0550-76-5715
小山消防署	0550-76-0119
小山消防署須走分署	0550-75-2001
御殿場警察署	0550-84-0110

本ハザードマップに関する問合せ先

小山町役場危機管理局

TEL 0550-76-5715

FAX 0550-76-5910